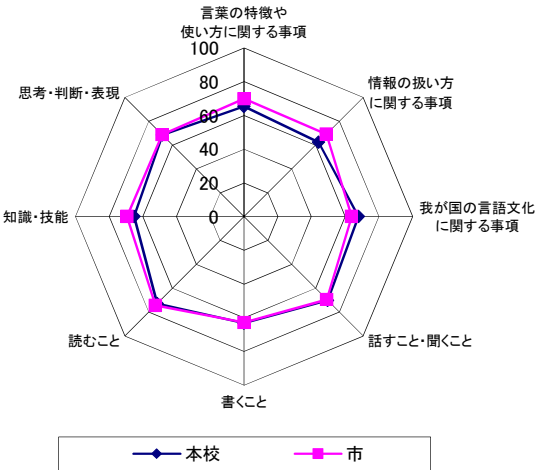


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.4	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	62.5	69.2	73.0
	我が国の言語文化にに関する事項	67.9	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	70.2	69.5	71.5
	書くこと	63.1	62.8	67.1
	読むこと	72.9	74.4	73.7
観点別	知識・技能	65.2	69.4	71.9
	思考・判断・表現	68.5	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

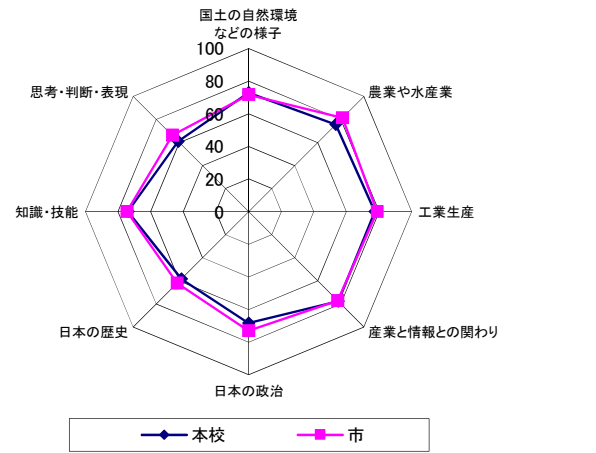
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○文と文との接続の関係を理解する問題では、正答率は67.9%で、市の平均正答率58.5%を11.1ポイント上回った。 ●第6学年の漢字を読む問題では、3問中1問は市の平均正答率を上回ったものの2問は下回り、第5学年の漢字を書く問題は全て市の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・他教科の学習でも既習の漢字を必ず使用したり、家庭学習や自主学習などで漢字学習への取り組みを習慣化していけるよう繰り返し指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率を3.4ポイント、情報を理解し目的に応じて簡単な文章を書く問題では、10ポイント下回った。	・情報を取捨選択したり、整理したりする力を高めるために、国語以外の学習でも、内容を要約したり、作者の意図を自分の言葉で文章化したりするなどの活動を意図的に学習に取り入れていく。 ・語彙力を高めるため、聞きなれない語句をタブレットや国語辞典で調べ、短作文やスピーチに生かしていけるよう支援していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○和語、漢語、外来語を区別する問題では、正答率は67.9%で、市の平均正答率63.8%を4.1ポイント上回った。	・今後も語句の由来や、熟語の構成や漢字の成り立ちなどに興味関心が持てるように支援していく。
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は、市の平均正答率を0.7ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の平均正答率を5.3ポイント上回った。 ●話の内容を捉える問題では、市の平均正答率を3ポイント下回った。	・話をよく聞き、メモを取りながら内容を整理する習慣が身に付くよう指導していく。 ・話の内容を深く読み取るために、要約する活動を行わせる。
書くこと	○指定された長さで文章を書く問題では3.2ポイント、自分の意見とその理由を明確に書く問題では5.2ポイント、市の平均正答率を上回った。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題では、市の平均正答率を10ポイント下回った。	・2つ以上の情報を整理し、関連付けてまとめ、文章に表す活動を増やしていく。 ・自分の考えをもち、その理由を明らかにして文章に表すよう指導していく。
読むこと	●正答率は、市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。 ○文章全体の構成を捉える問題では、市の平均正答率を8.3ポイント上回った。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題では、市の平均正答率を10.8ポイント、情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章の情報を整理する問題では3.4ポイント下回った。	・話の内容を深く読み取り、自分の考えを広げていけるよう、話し合い活動を増やしたり考えを表現したりする機会を設けていく。 ・説明文を的確に読み取り、事柄を関連付けながらまとめる活動を増やしていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.9	71.6	67.5
	農業や水産業	75.6	81.5	82.1
	工業生産	77.4	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	77.7	77.2	68.2
	日本の政治	68.3	73.1	77.9
	日本の歴史	58.3	62.0	65.8
観点別	知識・技能	73.9	74.6	74.5
	思考・判断・表現	60.9	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

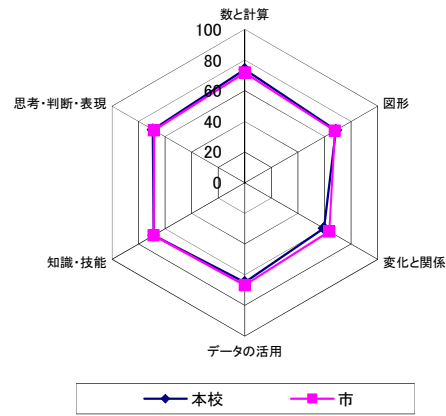
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○正答率が72.9%と、市の平均正答率を1.3ポイント上回った。 ○韓国の国旗とその位置について問う問題の正答率が4.1ポイント、日本の主な河川を問う問題が5.8ポイント市の平均正答率を上回った。 ●日本の周辺の海洋名を問う問題は市の平均正答率を5.3ポイント下回った。	・日本の主な地形(平野、山脈、河川)や日本周辺の海洋名などを繰り返し復習し、知識の定着を図る。 ・地図帳やノートに関連することを書き込んだり付箋を貼ったりして、理由付けしながら覚えるようにする。
農業や水産業	●正答率が75.6%と、市の平均正答率を5.9ポイント下回った。 ○農産物の生産量上位の都道府県を資料から選択する問題では、市の平均正答率を4.3ポイント上回った。 ●カントリーエレベーターや地産地消について問う問題では、市の平均正答率を11.1ポイント下回った。	・様々な資料を読み取る経験を通して、整理・分析し、正しいものを選択する力を養う。 ・地理用語について関連情報と一緒に理由付けしながら整理し、語句の理解を高める。
工業生産	●正答率が77.4%で、市の平均正答率を1.3ポイント下回った。 ○自動車の組み立て工場の作業工程について答える問題で2ポイント、日本の輸出品の資料を読み取る問題で6ポイント、市の平均正答率を上回った。 ●自動車の出荷の工夫について記述する問題で、市の平均正答率を12.2ポイント下回った。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再確認させる。 ・図やグラフなどの資料を読み取る活動において、内容を整理したり資料同士で比較したりしながら読み取る力を高めるとともに、話し合う活動を通して、思考力の向上を図る。
産業と情報との関わり	○正答率が77.7%で、市の平均正答率を0.5ポイント上回った。 ○メディアの特徴を理解する問題で正答率が94.6%で市の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ●資料を見て、コンビニエンスストアの発注システムについて判断する問題で正答率が60.7%で市の平均正答率を2.1ポイント下回った。	・学習をまとめる際に、1時間ごとの授業で学んだことを単元の最後に横断的にまとめることで学習の定着を図る。 ・身の回りに産業と情報が関連することに気付かせ、日常生活において生かせるようにする。また、関係する情報モラルについて指導をしたり、児童のメディアリテラシーを高める実践に取り組んだりする。
日本の政治	●正答率が68.3%で、市の平均正答率を4.8ポイント下回った。 ○基本的な人権の尊重の内容について判断する問題で正答率が87.5%で市の平均正答率を2.7ポイント上回った。 ●図を見て、国民による政治の仕組みを判断する問題で正答率が39.3%で市の平均正答率を10.7ポイント下回った。資料から読み取る事象について考察することに課題が見られる。	・復習用の教材を活用し、政治の仕組みについての知識の定着を図る。 ・自主的な調べ学習を奨励し、三権分立について図でまとめるなどの方法を紹介するなどして、学習の定着を図る。 ・新聞やニュースで話題になっていることを適宜取り上げて、政治の仕組みや日本国憲法について興味をもたせる。
日本の歴史	●正答率が58.3%で、市の平均正答率を3.7ポイント下回った。 ○鎌倉幕府の立地について資料を読み取る問題で正答率が73.2%で市の平均正答率を8.4ポイント上回った。 ●日本の文化に遣唐使が与えた影響を考えて表現する問題で正答率が25.0%で市の平均正答率を10.3ポイント下回った。指定された言葉を使って文を書くことに課題が見られる。 ●豊臣秀吉の政策に着目してその共通点を判断する問題で正答率が62.5%で市の平均正答率を12.1ポイント下回った。 ●2つ以上の言葉や資料の共通点や相違点から考えを導き出す問題に課題が見られる。	・復習用の教材を活用し、歴史の流れやできごとについて確認させ、基礎的な知識の定着を図る。 ・まとめの新聞やレポート、スライド作りなどを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・自主的な調べ学習を奨励し、歴史的事象のつながりや相違点が生まれた理由などについて気付かせて学習内容の理解を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.9	71.8	76.2
	図形	68.6	67.7	67.8
	変化と関係	59.5	63.4	62.7
	データの活用	64.9	66.7	61.5
観点別	知識・技能	68.7	68.6	70.7
	思考・判断・表現	69.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

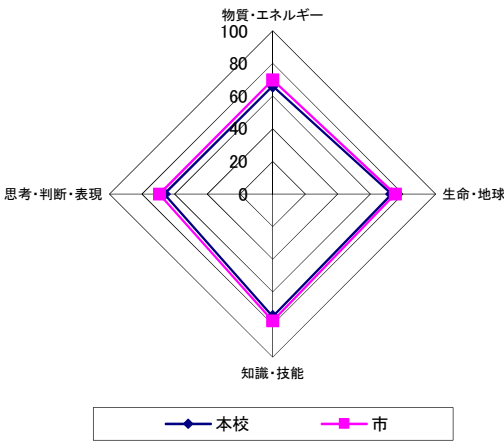
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率が73.9%で、市の平均正答率を2.1ポイント上回っている。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では、正答率が市の平均正答率を5.9ポイント上回った。また、文字の式を使って、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、21.8ポイント上回っていた。 ●分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題では、正答率が44.6%で市の平均正答率を4.1ポイント下回った。	・基本的な計算の苦手な分野を児童に確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材をプリントして用意しておき、有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・文章問題を解いていくときに、図を用いて考えたり説明したりする力をつけるために、各学年の授業で、立式時に図や表を活用して説明する指導を行っていく。
図形	○正答率が68.6%で、市の平均より0.9ポイント上回っている。 ○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、正答率が市の平均を4.7ポイント上回った。 ○合同な三角形を作図する問題では、87.5%と市の平均正答率を2.3ポイント上回っていた。 ●三角形の1つの外角を求める問題では、正答率が市の平均正答率を4.3ポイント下回った。	・児童に苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材をプリントして常に用意しておき、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・各学年において、具体物を操作しながら体験的に学ぶ機会を多く取り入れていく。その際、図形についての見方を用いて面積や体積、長さを求めることを実感させていくように工夫していく。図形を識別する感覚的な理解だけではなく、問題を解く筋道を立てる論理的な理解につながるように授業を工夫していく。
変化と関係	●正答率が59.5%で、市の平均正答率を3.9ポイント下回っている。 ○図から混み具合を考察する問題では、市の平均正答率を0.4ポイント上回っていた。 ●時速を分速や秒速に直す問題では、市の平均正答率を11.6ポイント下回っていた。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題では、市の平均正答率を0.5ポイント下回っていた。	・数や式と数直線図を関連させ、求めた数値が何を表す数値なのか視覚的に理解できるような指導を継続していく。 ・距離も時間も異なる場合において、距離か時間を揃えることで比較できることや、1単位時間に揃えと、数値が大きい方が速いことを教科書や問題集を通して確認し、理解を深められるように指導する。 ・算数だけでなく様々な教科の中で、題意を読み解く練習をする。 ・割合では、プリントやドリル等を使って多くのパターンの問題に取り組みせたり、日常生活の中で割合を見つける活動を行ったりするなど、割合の表現に慣れさせるようにする。
データの活用	●正答率が64.9%で、市の平均正答率を1.8ポイント下回っている。 ○ヒストグラムを正しく読み取る問題では、正答率が91.1%で、市の平均正答率を6.4ポイント上回っていた。 ●欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選ぶ問題では、正答率が55.4%で、市の平均正答率を6.9ポイント下回っていた。	・朝の学習や宿題等で、平均やデータの見方についての復習問題に多く取り組ませ、学習内容の理解が確実なものとなるよう、継続して指導していく。 ・様々なデータやグラフに触れさせ、内容を読み取る問題に多く取り組ませることで、データの内容を正しく理解する力を育成していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.2	69.9	67.8
	生命・地球	73.0	75.1	73.7
観点別	知識・技能	75.1	77.8	78.4
	思考・判断・表現	66.4	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●正答率は、市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。 ○「電流のはたらき」で、対照実験についての理解が市の平均正答率を6.4ポイント上回った。 ○「物のとけ方」では、結果の表から溶け方の違いを読み取ることが市の平均正答率を3.2ポイント上回った。 ●「ふりこのきまり」は、どの問題も市の平均正答率を5ポイント以上下回っている。 ●「水よう液の性質」では、リトマス紙を用いた水溶液の液性の理解が市の平均正答率を8.8ポイント下回っている。	・実験を行う際は、授業の流れをパターン化し、定着を図る。 ・実験の結果を整理する際は、児童から意見を積極的に吸い上げ、考え合う・話し合う時間を確保して思考を深める。 ・実験の結果から導かれた知識について、「実験から分かったこと」として全体のまとめを教師が丁寧に行い、知識の定着を図る。
生命・地球	●正答率は、市の平均を2.1ポイント下回っている。 ○「生物と環境」で、アイガモ農法の利点についての記述は、市の平均正答率を8.3ポイント上回った。 ○「植物の発芽と成長」で目的合った対照実験についての理解が市の平均正答率を2ポイント上回った。 ●基礎的な知識の定着が不十分である。	・日常的に理科に関する番組やニュースを紹介して、興味を広げる。また、一つの事象から多くの事象に関係が広がっていくことを教師側が意識して取り上げ、指導にいかすようにする。 ・基礎的な知識、習得すべき文言を丁寧に取り扱い扱っていく。 ・授業の最初に、前時の復習や確認を行う。

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学び・思考力・表現力を育てる授業作り	- 課題意識が高まる教材と問題との出会いと発問の工夫(導入の重視) - 活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度を育成する。	「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の割合は、多くの学年で90%以上で市の平均を上回っており、学校全体の平均は87.4%であった。 「グループ学習での話し合いに進んで参加している」のについての肯定割合は、学校全体の平均が78.13/パーセントで、市の平均を下回る学年が多かった。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	- 授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 - 分かりやすい板書とノート指導の工夫 - 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	「学校の授業が分かる」と回答した3年生～6年生までの平均は、87.6%で、学年別によると、市の平均を下回る学年が多かった。 6年生では、特に思考力・表現力・判断力を問う問題について、課題が見られる。資料や情報をもとに、考えを記述する問題の正答率が低かった。 - 算数では、活用問題・応用問題ともに、市の平均を上回っていた。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示	「宿題をきちんとやっている」と回答した児童の割合は、多くの学年で、85%を上回り、学校全体の平均は、89.5%であったが、「計画を立てて自主学習をしている」や「習ったことを復習している」についての肯定的回答割合は、市の平均を下回っていた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・市の調査から、各教科で、市の平均を下回る傾向にあり、特に考えを記述する問題や、深い思考を伴う問題に課題が見られた。そのことを踏まえて、問題や文章の内容を手掛かりに、自分の考えをもち、それを分かりやすく表現する力を伸ばすため、各教科において、話す・書くなどの活動を意図的に設定することで、学力の向上を図る。

・「話し合いに進んで参加している」児童の割合は、市の平均を下回る学年が多かった。今年度から学校課題として取り組んできた「協働的な学び」をさらに充実させ、友達と考えを伝えあいながら、学びを深めていけるよう、今後は、授業展開を工夫改善していく。

・「学習でわかったりできるようになったりすることはうれしい」と回答した児童の割合は、学校全体で93.7%が高かった。今後も、児童が「わかる」「できる」喜びを味わえるように基礎的な学習内容の習得を目指し、丁寧で分かりやすい授業や個に応じた児童への支援に取り組んでいく。また、児童の学習への意欲や興味関心が高まるような、課題設定や活動内容の工夫に取り組んでいく。